

09 日本国特許庁 (JP)

10 特許出願公開

12 公開特許公報 (A)

昭59—43260

50 Int. Cl.³
F 16 J 9/20

識別記号

庁内整理番号
7912—3 J

43 公開 昭和59年(1984)3月10日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

54 ピストンリング

①特 願 昭57—154391
②出 願 昭57(1982)9月4日
③発 明 者 福村清
大阪市北区茶屋町1番32号ヤン
マディーゼル株式会社内

④発 明 者 岡島俊幸
大阪市北区茶屋町1番32号ヤン
マディーゼル株式会社内
⑤出 願 人 ヤンマディーゼル株式会社
大阪市北区茶屋町1番32号
⑥代 理 人 弁理士 筒井大和

明 細 書

1. 発明の名称

ピストンリング

2. 特許請求の範囲

ピストンのトップリングが非対称な断面形状を有するピストンリングにおいて、トップリングの装着時に該トップリングの下面とトップリング溝の下面とのなす角度 α が $5^\circ \sim 25^\circ$ となるようにしたことを特徴とするピストンリング。

3. 発明の詳細な説明

本発明はピストンリング、特に、ピストンのトップリングが非対称な断面形状を持つピストンリングに関する。

一般に、内燃機関におけるピストンリングは様々な断面形状を有するものが提案されているが、いずれにしてもガスの吹き抜けの防止および潤滑油の消費量の節減等を図りうるものであることが要求される。

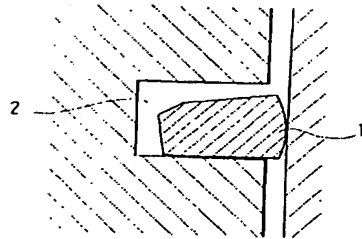
そこで、従来、実開昭56—38138号および特開昭56—85545号公報には、それぞれ第1図お

よび第2図に示すように、ピストンリング1の下面とリング溝2の下面とが面接触し、ピストンリング1とリング溝2との気密作用を向上させる構造が開示されている。また、実公昭47—7282号および特公昭50—38771号公報にも、ピストンリングの下面とリング溝の下面とが面接触するものが開示されている。さらに、実公昭36—1104号公報にも、ピストンリングの下面をリング溝の下面にびつたり接触させて十分な気密作用を得るための構造が開示されている。

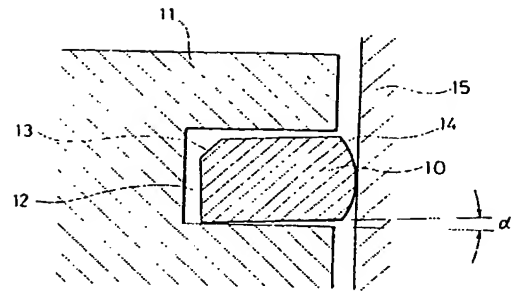
しかしながら、これらの従来技術はいずれもピストンリングとリング溝との気密作用の向上を目的とするものであり、特にピストンリングのうちのトップリングの下面とトップリング溝の下面とが面接触する構造では、ピストンリングの摺動面が油かき効果の高い摩擦形状になりやすく、潤滑油の消費量を節減することはできない。

また、実開昭56—105636号公報には、偏心バレル形ピストンリングの下向きの傾斜を打ち消すためにピストンリングのトップリングにインナ

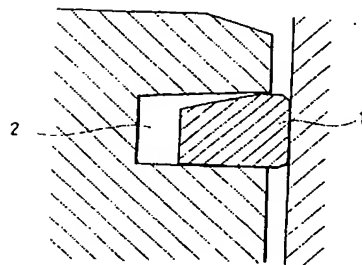
第1図



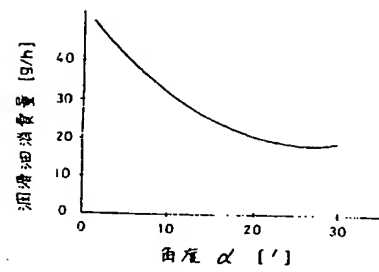
第3図



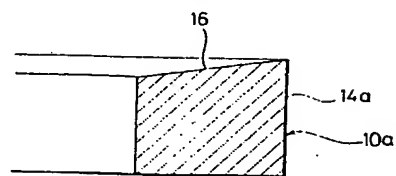
第2図



第4図



第5図



第6図

